

平成 28 年 7 月 18 日

「海の日」を迎えて

一般社団法人 日本船主協会
会 長 工藤 泰三

平成 28 年の「海の日」を迎えるにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

四面を海に囲まれたわが国においては、輸出入物資の 99%以上が船舶によって海上輸送されています。海洋国家であるわが国にとって、海運は国民の生活やあらゆる産業活動に不可欠なインフラとなっております。また、世界第 6 位の排他的経済水域を有するわが国の周辺の水には豊富な海底資源の存在が確認されておりますが、世界の海洋開発などにも、海運は積極的に取り組んでおります。

しかし、残念ながら、海運のこうした役割はわが国においてはほとんど理解されておらず、人材の確保にも支障が出始めており、このままでは、わが国商船隊によるわが国の貿易物資の安定した海上輸送が困難になってしまいます。

このため当協会は、国民の皆様の理解を高めいただくことを目的に、今年度も引き続き、政府や日本財団の「海と日本プロジェクト」に参画し、他の海事団体とも協力し、「海の日」を中心に商船見学会をはじめと様々なイベントを実施しています。さらに、小中学校の学校教育現場においても、わが国と海外諸国をつなぐ貿易の現状をはじめ、海運と諸産業の相互連関、海事産業の地域における役割等について説明し、海運を中心とした海事産業に対する子供たちの理解増進につながる活動を他の海事団体と連携して取り組んでいます。

また、国民の祝日「海の日」は、1,000 万人を超える国民の皆様の署名をいただき、2,300 近い地方自治体にも決議をいただくなど、民間からの強い要望により実現した国民の休日です。制定当初は、もともと海の記念日とされていた 7 月 20 日とされていましたが、現在はハッピーマンデーに変更されています。「海の日」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国家日本の益々の繁栄を願う」という意義を国民の皆様の心に深く刻んでいただく日であり、海を活動の場としている海運にとっては、あらためて安全運航と環境保護を誓う日でもあります。「海の日」を是非、本来の 7 月 20 日に戻し、海洋国家であるわが国がこれからも繁栄していく記念の日として永遠に祝いたい、と強く願っています。

最後に、海に係る関係者の皆様のご健勝とご発展を祈念しまして、「海の日」のご挨拶とさせていただきます。